

戸 田 市 教 育 委 員 会 会 議 録			
招 集 期 日	令 和 5 年 2 月 1 6 日 (木)		
場 所	戸 田 市 役 所 教 育 委 員 室		
開 会	2 月 1 6 日 午 前 9 時 3 0 分		
閉 会	2 月 1 6 日 午 前 1 1 時 3 0 分		
教 育 長	戸ヶ崎 勤		
教 育 長 ・ 委 員 出 席 状 況	戸ヶ崎 勤	出 席	
	仙 波 憲 一	出 席	
	木 村 雅 文	出 席	
	長 道 修	出 席	
	浜 田 美 咲	出 席	
説 明 員 (出席者)	山上教育部長、川和田次長、横田次長兼教育政策室長、		
	金澤教育総務課長、大森学務課長、田野教育政策室担当課長、		
	鎌田生涯学習課長		
書 記	教育総務課総務担当 鎌田副主幹、金田		
傍 聴 人	2名		

会議の経過及び結果

教育長

政府が2023～27年度の5年間の次期計画で打ち出した防衛費の大幅増に関し、様々な反発の声も少なくありません。

米国の中国の気球撃墜のニュースは記憶に新しいところですが、いま、米国や中国が激しい技術開発競争を繰り広げているのは、先端技術が暮らしを便利で豊かにするばかりではなく、戦争の行方を決定づける「ゲームチェンジャー」になると考えているからとも言われています。

日本の防衛省は、スウォーム（群れ）攻撃に対処する技術獲得を目標の一つに掲げています。スウォーム攻撃とは、AIを搭載した無人機を多数飛行させ敵に襲いかからせる手法です。多くの無人機を互いにぶつからないように飛ばす技術は既に実用化されています。2021年7月の東京五輪開会式では、約1800台の無人機が国立競技場の上空に地球などを描いたショーが注目を集めたのも記憶に新しいところです。

AI技術がさらに進めば、自動運転車の普及につながりますが、映画「ターミネーター」に出てきたようなキラーロボットも出現しかねません。3Dプリンターは建築や工芸、医療といった様々な用途に役立てられていますが、米軍などはそれを利用し、武器や弾薬を戦場で作り出すことも視野に入れているとも言われています。バイオ科学の発達も、難病の治癒薬が期待される一方、ウイルス兵器の開発につながる恐れがあります。量子技術は、量子暗号通信によりハッキングが理論上不可能になるとされ、金融や医療などのプライバシー情報に加え、軍事機密のやり取りへの活用が期待されています。

総合科学技術・イノベーション会議常勤議員であり、私も直接御指導をいただきましたが、国の科学技術政策の立案に長らく携わってこられた上山隆大先生は次のように述べています。

「新たな科学技術の開発には巨額の投資が必要だ。20世紀初めの米国では、国防関連の研究を強化するために投じた大型の資金が科学技

	<p>術を振興させた。革新的な技術を誕生させることは、防衛力だけではなく、経済を成長させて国力を高め、全体としての安全保障強化につながるという好循環を考えていたからだ。その循環を我が国でも生み出すことが求められている。米国では、リスクの高い研究にも投資し、スタートアップの勃興につながってきた。投資先の一つがバイオテクノロジー企業のモデルナで、遺伝物質「メッセンジャーRNA」を使ったワクチンの技術蓄積に結びついたことが知られている。我が国では元々、学界側に軍事忌避の風潮が強かった。安全保障環境が厳しくなり、先端技術を軍事用、民生用に分けて考えることはできないことについての理解は多くの研究者に広がってきていると思う。」</p> <p>日本学術会議も、AIなどの軍事と民生双方で活用できる「デュアルユース（軍民両用）」の先端科学技術研究について、軍事と無関係な研究と「単純に二分することはもはや困難」との見解を示しています。ロシア軍の攻撃は今年も続いています。戦争だけはやらないさせない、そんな決意を人類はもつべきです。今後は、民間技術が将来の戦争の勝敗をも左右しかねない時代だからこそ、教育の大切さが再認識されるべき時代なのだろうと思います。</p>
教育長	<p>それでは、ただ今から、令和5年第2回戸田市教育委員会定例会を開会いたします。初めに、前回の会議録の承認ですが、事前に会議録の内容を見ていただいておりますので、御異議がないようでしたら承認ということでよろしいでしょうか。</p>
各委員	<p>了承</p>
教育長	<p>それでは、会議録に御署名をお願いします。</p>
各委員	<p>署名</p>
教育長	<p>次に、秘密会となる案件につきましてお諮りいたします。次の案件については、人事案件等となりますので、秘密会で行うこととしてよろしいかお諮りいたします。</p> <p>報告第1号 令和5年度特別支援学級設置計画について</p>

	<p>議案第7号 令和5年度当初戸田市立小・中学校教職員の人事異動 (案) について</p> <p>議案第8号 令和4年度戸田市教育委員会表彰について</p>
各委員	異議なし
教育長	<p>それでは「報告第1号、議案第7号、第8号」は、秘密会とすることに決定いたしました。</p>
教育長	<p>はじめに、「教育委員提案」について御報告いたします。以前の教育委員会にて委員より御質問のあった件について報告がございます。</p> <p>① タブレット端末の管理・運用について</p> <p>② 戸田市民大学の現状と卒業後の知識活用について</p> <p>それでは浜田委員から御提案のありました「教育委員提案①タブレット端末の管理・運用について」事務局より説明願います。</p>
事務局	<p>浜田委員から御提案の「①タブレット端末の管理・運用について」御説明いたします。</p> <p>2ページを御覧ください。</p> <p>はじめに、児童生徒のICT活用を取り巻く現状と課題です。現在1人1台環境の有無を問わず、ICTについては子供たちの日常生活から切り離せないものとなる中、学校内外を問わず子供たちがICTに接する機会が増大していることは言うまでもございません。また、現代は「砂一時代」と呼ばれるほど、日々膨大な量の情報が生み出されており、1月の教育フェスティバルの講演でもありましたが、アルゴリズムによる「フィルターバブルといったインターネット上で自分の興味のある情報しか見えなくなること」や「エコーチェンバーという、自分と同じような意見を見聞きし続けることによって、自分の意見が増幅・強化されること」といった閉鎖的な情報交流空間も日常化しております。このような中、子供のICT利活用状況などを全て監視・把握することは不可能であり、従来の制限・禁止的指導では、大人の目が届かないところで問題の悪化が想定されます。また、それではSociety5.0時代を生きる子供たちに身に付けさせたい資質・能力の育</p>

成にもつながりません。

3 ページを御覧ください。

そこで、今後の方向性として、一定の安全性を確保した市の端末やアカウントの積極的な利活用を前提に、これまでの制限・禁止的指導を中心とした情報モラル教育からデジタル・シティズンシップ教育への質的転換を図る必要があると考えております。デジタル・シティズンシップとは、ICT 活用だけではなく、主権者教育や金融教育、人権教育、キャリア教育、健康教育等と深く関連しながら、全教育活動を通して育まれるものと捉えております。

4 ページを御覧ください。

これは、令和4年度の全教職員に配布している「指導の重点・主な施策」で、デジタル・シティズンシップについて紹介しているページです。旧来の情報モラル教育は、教師が主導となり、主に個人の安全利用にむけてリスク管理し使用を制限するものでした。デジタル・シティズンシップは、ICT 活用が前提で、デジタルのメリットを踏まえた責任ある主体的利用を目指し、学習者主体で情報社会を築く市民としてテクノロジーをどう活用するか考え行動する資質・能力です。こうした力を育成するための質的転換が必要と考えます。

5 ページを御覧ください。

デジタル・シティズンシップの領域について参考文献をもとに事務局で作成したものです。大きく5つの領域とそれぞれの育成したい子供の姿を例示しています。一番下のニュース・メディアリテラシーについては、先ほども触れましたが、1月の教育フェスティバルでスマートニュースメディア研究所の山脇所長に御講演いただいた内容に、まさに関わってくるかと思えます。

6 ページを御覧ください。

それに関連して、今年度からメディアリテラシーの育成に向けた取組を始めています。学校においてロジカルシンキングやクリティカルシンキングといった思考法を「主体的、対話的で深い学び」の中で経験させ社会において自立し民主的で持続可能な社会の担い手たる資

質・能力の育成を目指しています。

下段にありますとおり、戸田市における取組として、スマートニュースメディア研究所との連携による教材作成や研修をはじめ、各教科等の学習やPBLを通してメディアリテラシー育成を進めております。

7ページを御覧ください。

ここからは、デジタル・シティズンシップ教育の今後の展望となります。

今年度は、各学校から代表者が集まる戸田市プログラミング・ICT教育研究推進委員会で理論研究と教材作成を進めております。また、スマートニュースメディア研究所との連携による教員研修をはじめ、市内小学校において先行授業と効果検証を行っております。これらをもとに来年度、市内全校で校内研修と試行の授業実践を通して教育計画の作成を進め、令和6年度から計画に基づいて全面実施をする予定です。

8ページを御覧ください。

学校だけ、子供だけで進めるものではなく、家庭や地域とも連携を図りながら進めていくことが重要となります。そのため、ここにありますように、戸田市の広報誌にもデジタル・シティズンシップの紹介記事を掲載し、周知啓発を図っております。

9ページを御覧ください。

ここからは、現在、一人一台のタブレット端末をどのように管理・運用しているかについて御説明いたします。こちらについては、令和3年度の第10回定例教育委員会でも説明しているものですが、基本的に「人」「端末」「使用アカウント」を名簿に記入し、対応させて管理しております。その際、アカウントのパスワードについては、これから先の将来においても個人管理が原則ですので、学校による管理は行っておりません。そのかわり、学校の管理者にパスワードリセット権限を付与して、万が一パスワードを忘れてしまった子がいた場合に対応しております。

10ページを御覧ください。

また、端末の安全性の確保につきましては、学習に必要なアプリの一元管理できる MDM を導入し、教育委員会の許可したアプリをインストールできるようにしています。また、フィルタリングソフトも導入しており、市で貸与している端末においては、学校、家庭で同様のフィルターがかかっております。これは、カテゴリ、例えば「ゲーム」「SNS」「アダルト」等によるフィルタリングとなっており、フィルターにかかる Web サイトのうち、学習上有用で学校から要望があるサイトについては、ホワイトリスト登録により閲覧が可能となります。しかしながら、カテゴリで制御しきれないサイトもあり、その場合は、学校からの報告によりブラックリスト登録をすることで閲覧不可とすることが可能です。

1 1 ページを御覧ください。

こちらは端末活用の約束等で、左側が市でひな型を作成した児童生徒向けの約束例です。右側は、喜沢小で作成した教職員の共通認識事項の確認一覧です。年度当初はもちろんのこと、年間を通して機会をとらえ、繰り返し継続的に指導していくことが重要かと思えます。

1 2 ページを御覧ください。

こちらは市内の学校で行われている特徴的な取組です。多くの学校で行っているのが児童会・生徒会主体のルール作りです。なかには、保護者と教職員がデジタル・シティズンシップをどのように育てていくか意見交換する場を設定した学校もありました。

1 3 ページを御覧ください。

最後にこちらは、戸ヶ崎教育長も関わりのある内閣府総合科学技術・イノベーション会議 Society 5.0 の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージの資料です。国のこれからの社会を見据えた教育施策の方向性を話し合う会議においても、真ん中クリーム色の丸にありますとおり、デジタル・シティズンシップが子供たちに備わっていることが大前提と謳われております

本市におきましても、単にタブレット端末を管理規制するだけではなく、Society5.0 時代を生きる子供たちに身に付けさせたい資質・能

	力としてデジタル・シティズンシップの育成を進めてまいります。以上でございます。
委員	分かりやすく御説明いただきました。ありがとうございます。以前は、情報を得るために個人で使っていたものが、現在はSNSを代表するようにICTの世界の中でも、他者との関係、社会が形成されています。その中で、責任感を持った行動が求められると思いますので、デジタル・シティズンシップ教育は非常に重要であると感じました。また、様々な意見がある中で、学校での保護者との意見交換の場づくりというのもよいことですし、積極的に実施していただきたいと思います。
事務局	現状としては、1校での実施にとどまっていますが、様々な御意見があるかと思しますので、教職員、学校との対話の機会を設けていきたいと思います。
教育長	様々な御意見を一つに取りまとめることはなかなか難しいですが、意見を出し合い、互いの考え方を学ぶといった貴重な機会でもありますので、そういった意味でも必要であると思います。
事務局	懇談会など、機会を捉えて対応していきたいと思います。
委員	保護者や教師、皆で進めていただきたいと思います。子供たちは頭が柔らかいので、割とすっと吸収していくのかなと思いますが、前段階として、保護者や教師の理解を深めることが大切かと思えます。学校訪問をしていると、進んでいくにつれ、学校間の格差が広がっていったような印象を受けます。そういったところもフォローしながら進めていただければと思います。
事務局	課題として受け止めております。各校の代表職員に集まっていたら研修を行っていますが、その方たちを核として、学校での組織づくりというか、皆で横展開できるような仕組みづくりを、引き続き力を入れてやっていかなければと思っております。ただ、やはり、進んでいる学校、進みがゆっくりな学校という差ができてはいるのは確か

	だと思えます。
教育長	<p>スピードや質、発展的な取り扱いなどで差が出てしまうというのは、ある程度やむを得ない部分があるかと思えますが、どこの学校でも一定のレベルは保証できるといった体制づくりが必要だと思えます。取り組みの格差が広がらないように、各校へ啓発してほしいと思えます。</p>
委員	<p>情報モラル教育の重要性は以前から言われてきています。子供たちが自分で課題に気付き、その対応を主体的に考えるというのは大事なことだと思えますが、前提として絶対にやってはいけないこと、同調してはいけないことがあります。子供なので、どれだけ話しても誰かはやってしまうかもしれないし、基本的にやるものかなと思えます。ただ、それが、取り返しのつかない状況となる場合もありますので、それをしたらどうなるのか、また、やってしまったら、その責任をきちんと取らなければならないということをまず、丁寧に指導していく必要があります。そこを徹底しておかないと、将来的に被害にあう子供が出てしまう可能性があるのではないかと思えます。</p> <p>情報というのは嘘もありますし、真実を発信したものかどうかを見極めるための判断力や、思考力といった考える力を身に付けていくことは大切です。そこを教育していくことが大事なのだろうと思えます。</p> <p>逆に難しいなと感じるのは、保護者への対応です。子供は学校で直接指導できるので、力をつけさせていくことができますが、保護者にどのように関心を持っていただくかといった点は、今後の大きな課題だろうと思えます。先程のお話にもあった、意見交換というのはよいことだなと感じました。</p>
教育長	<p>課題として御指摘いただいた点が3点ほどあったかと思えます。</p> <p>まず、シティズンシップ教育も大切ですが、情報モラル教育を基盤にすべきであるといった点、すべてを子供に判断させるのは危険です</p>

	<p>ので、安全な枠内で主体的に判断させるということ、次に、情報の真偽に対する判断力、思考力を養っておくべきということ、最後に、保護者への理解啓発ということで、学校を中心に、意見交換等、考えを共有しながら、保護者の理解を促していくことが重要であるという御指摘をいただきました。</p>
事務局	<p>「問題は起こるもの」という考えで、起きた時に、子供たちにどのように考えさせていくのかということが重要なかなと思います。</p> <p>最近ニュースにもなっている迷惑動画等も、一度、ネット上に上がってしまったものは、消すことができないということも、学校の中できちんと教えていかなければならないと考えています。ただ、その前提として、その行為をやっていいかどうかという、モラルといったことも、きちんと指導しなくてはならないと感じます。引き続き、学校とも連携しながら進めていきたいと思っています。</p>
委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>「タブレット端末の管理・運用について」といったタイトルからは、パスワードをきちんと保管するといった話かなと想像していましたが、もっと全般的なお話を伺えて、こういった姿勢で情報教育に取り組まれていることはよいことだと思いました。</p> <p>なぜ一人一台端末の整備が重要になってきているのかという理由が資料には記載されていて、情報が溢れている中、それを子供たち自身にいかにかんたロールさせるか、かんたロールするための能力をいかに身に付けさせるかということが、デジタル・シティズンシップ教育なのかなと思いました。</p> <p>児童生徒や保護者に対するデジタル・シティズンシップ教育のカリキュラムは、具体的にどの様になっているのですか。</p>
事務局	<p>7ページの部分ですが、今年度は、ICTをどう使っていくのかということをお話し合う委員会で、カリキュラムづくりと教材作成を中心に</p>

	<p>取り組んでいます。例示しているカリキュラムのプランについて、実践をしていただきながら、子供たちの実態に応じて作り直しを各学校の先生方をお願いしています。</p> <p>フェイクニュースを見抜くことや、題材をスマートニュースメディア研究所にも御協力いただきながら、戸田市版として改良を加えているといった状況です。</p> <p>今年度実施していることを基に、来年度はすべての学校で3時間程度実践をしていただいて、自校における計画を作ってもらおうというところまで計画を立てております。その計画に基づいて全面実施していくのが再来年度ということになります。現在は、教材と計画の作成について、各学校に情報を提供しているといった段階です。</p>
委員	<p>御承知のとおり、ICT というのはほとんどライフラインになっているといっても過言ではありません。今のお話にあった、授業での実践というのは何の授業での実践になりますか。</p>
事務局	<p>特別活動（学級活動）を考えております。ただ、先程も申し上げましたが、その時間だけやれば身に付くものではないので、学校の全教育活動の中で、適宜行っていくという形を考えております。</p>
委員	<p>タブレット端末の使う中で、実践しながら、よい、悪いを学ばせていくといったやり方をしていかないと、社会状況の変化のスピードに遅れていくような気がします。</p>
事務局	<p>日々の活用の中で、各学級で落とし込みながら、さらにそれとは別枠で、授業も行っていくという両輪で進めていくといった認識で考えております。</p>
委員	<p>そうしたことを文書化したものを保護者にお示しすることによる啓蒙といいですか、そういった方法もあるのではないかなと思います。生活の様々な場面で ICT を活用していくことの延長というか、コンピテンスをどのようにつけさせるかということも、速度を挙げて施</p>

	策を進めていく必要があるのかなという気がします。
事務局	6ページを御覧いただきますと、すでに各教科の中で取り組み始めている部分もありますし、また、多様性の理解に向けてということですと、道徳やセサミストリートカリキュラム等も、本市独自で実施しているものとなります。日々、使用していれば何らかの問題は起こってきます。その際の対処については、授業の時間というよりは、その都度やっているという現状がございますので、それに加えて、カリキュラムにそって計画的にできるよう、体制づくりは進めていきたいと思えます。
教育長	多くの自治体で、情報モラル教育を実施するだけでも精一杯で、まだデジタル・シティズンシップ教育まで進んでいないというのが現状です。国の方針や、デジタル・シティズンシップ教育のコンテンツが少ない状況の中、本市独自で進めていこうといった先進的な取り組みであることは御理解いただければと思います。委員のおっしゃるとおり、社会は著しい速度で変化していきます。子供が被害に巻き込まれないよう、スピード感をもって対応していかなければならないですし、事務局からもありましたが、両輪で進めていく、カリキュラムマネジメントが重要であろうと思えます。ぜひ、多くの学校で、保護者の方に授業等を御覧いただければと思います。他にはございますか。
委員	特になし。
教育長	では、以上で教育委員提案①は終了いたします。 つづきまして、長道委員から御提案のありました「教育委員提案② 戸田市民大学の現状と卒業後の知識活用について」事務局より説明願います。
事務局	資料14ページ 長道委員から御提案いただいた「戸田市民大学の現状と卒業後の知識活用」について、説明いたします。 資料15ページを御覧ください。 まず、戸田市民大学の現状についてです。

戸田市民大学は、平成20年度からスタートした取組です。時代と社会の要請に即応し、地域性のあるテーマや社会課題を反映した多様な学習機会を提供することで、市民の自主的な活動の促進や、自己教育力を高めることを目標としています。

今年度は、くらし、教養、地域の学び、スポーツ・健康、リカレント、大学連携の6つのコースから約60講座を開講しており、1講座につき1単位を付与する単位制を取り入れています。

45単位修了した方には、市長から修了証を授与するほか、大学の公開講座等の授業料の一部を補助する大学聴講補助制度を設けています。

これまでの修了者数は延べ142名で、何度も修了されている方も多くいらっしゃいます。また、今年度の修了式は3月11日に市民大学公開講座と併せて実施します。今年度の修了者数は14名です。

このように、市民大学には、卒業という制度はなく、一定単位数を修得した方に対する表彰制度を設けています。

続いて、学習後の知識活用についてです。

資料16ページを御覧ください。

現状の市民大学制度は、様々な分野から個人の興味・関心に基づいて学習内容を選択し、学ぶ楽しさを実感できるようにすることに重点を置いているため、受講後の目的を明確にカリキュラムを組んだものではなく、45単位分の講座の修了が特定のスキルの習得に結びつくものではありません。修了者の表彰は、これまでの学習の成果をたたえ、学習継続のモチベーションとして機能しています。また、市民大学で興味を持った分野をさらに深めて学んでいただく機会として、大学聴講補助制度を設けたり、自身で講座を企画・提案する「市民企画講座」の取組等を設けることで、学びのステップアップを目指せる仕組みをつくっています。

一方で、現状の市民大学制度の課題もあげられます。一つ目は、大学聴講補助制度の利用実績が少ないという点です。平成24年の制度開設以来、利用者は1名のみにとどまっており、制度の周知不足や市

民ニーズの調査不足が課題となっています。二つ目は、学習意欲を高めるための仕組みづくりです。単位制は、様々な市民大学講座に参加していただくためのきっかけづくりとなるよう実施しており、リピーターも多くいらっしゃる状況ではあるものの、若年層など新たな層に向けても講座受講をはじめとした学び直しが促進されるようにするためには、どのような仕組みが必要なのか、再考していくことも求められています。3点目は、学びと地域づくりをどうつなげていくかという点です。現代の社会教育行政においては、個人の学習ニーズを満たすための学習機会だけではなく、学びを通じた地域づくりや地域の人材育成をどのように行っていくかという面も検討していくことが必要とされていますが、現状の市民大学制度ではその側面が充分に取り入れられていないことが課題となっています。

資料17ページを御覧ください。

以上を踏まえ、現状の市民大学制度について図のとおり整理しました。社会教育の意義は、一人ひとりの生活と地域づくりを支える「学びと実践」の機会を提供することであり、個人の学習ニーズを満たし、自己教育力を高めていく視点と、「学びを通じた地域づくり」の二つの視点が必要です。

現状の市民大学は、様々な分野の講座を用意することで、個人の学習ニーズを満たし、自己教育力の向上に寄与していると考えられます。一方で、今後、社会教育を推進していくためにその両輪として求められているのが、「学びを通じた地域づくり」の視点です。学んだことを地域活動に生かしていけるようなステップアップの仕組みづくりについても、今後は重要な視点であり、学習後の目標や、学んだことを活用する場所を明確にしたうえで講座を構成していくことも、講座内容や市民大学の在り方を考えるうえで重要な視点であると考えています。

以上を踏まえ、今後の展望についてまとめました。

資料18ページを御覧ください。

個人の学習や地域での生活のリテラシー向上を支える社会教育行

政の在り方としては、個人の学習を促進するための学習記録ツールの開発や、既存の講座内容、連携大学等の見直し、大学聴講補助制度の周知強化を行うことで、個々の学び直しの推進につなげていきたいと考えています。

一方で、学びを通じた地域づくりの実現に向けては、各公民館において、令和5年度から新たなシニア世代向け講座を実施いたします。一つのテーマを設定し、その目的や成果に向け、共に学び、体験し、さらに活動への参加や交流へのきっかけとなる情報提供や、活動の場の紹介・体験をセットにしたパッケージ型講座を実施することで、講座で学んだ知識を実際に地域で活かして活動し、地域の人材育成や市民の社会参加につながっていくような仕組みをつくります。これまで、各課や公共施設、各種団体等で各々単発で実施していた講座を連携しながらテーマに関連した講座として合体させます。令和5年度から各公民館で1コースずつを目標に、開催していきます。令和5年度については、健康ウォーキングや体操など100歳まで歩ける、動ける体力づくりや健康をテーマに実施します。ウォーキングコースでは、フレイル予防の大切さを学び、正しい姿勢や歩き方を体験し、健康マイレージ事業の紹介、地域でのおすすめウォーキングコースの紹介、市民活動の紹介など、学びから活動へとつなげられるよう、パッケージ型にした講座を想定しています。令和5年度からは、シニア世代向け講座にコーディネート機能を持たせ、学びから活動へのつなぎ役となる連続講座としてまいります。こうした仕組みがこれまで足りなかったので、人材や社会資源の情報を有する生涯学習課の社会教育指導員や社会教育主事等が講座のアドバイザーとして関与し、学びと活動への橋渡し、学び続ける仕組みをサポートしてまいります。

資料19ページを御覧ください。

現在社会教育行政においては、人生100年時代、単に知識習得の機会を提供するだけでなく、学びを通して住民同士がつながりを持ったり、地域の課題について共に学び合うことで、コミュニティ形成や地域課題の解決につながる場を創り出していくことが求められて

	<p>います。</p> <p>そこで、今後の戸田市民大学では、これまでのように、個人の学習ニーズに応えるだけでなく、社会的なニーズも踏まえた学習機会の提供ときっかけづくりを行うために、公民館など社会教育施設等も活用し、学習活動の目的やその後の知識活用の場を地域の中で具体的に紐づけながら、学びや活動の場をコーディネートしていきたいと考えています。</p> <p>そして、市民大学で学んだことが日々の生活や地域で生かされ、地域からも求められ、いつまでも健康で、学びや活動が続けられるよう、生涯学習課だけでなく、市民をはじめ、企業、大学、市民活動団体等の強みを生かし、連携して取り組んでまいります。</p>
委 員	<p>本当に多くの興味深い講座を開設されていて、意欲的に、様々取り組まれているのだということがよく分かりました。ありがとうございます。</p> <p>私自身もそうですが、年齢を重ね、例えば退職等すると、時間がたくさんあります。地域との協力や、学んだことを活かすことは大切なことですし、何かしたいと思って、他市でも市民講座を受講しようと探しますが、なかなか「受講したい」と思えるようなものはありません。今回の報告事項にもありますが、「がんばらない生き方」など非常に興味をそそられますし、受講したいと思います。戸田市にはそういった講座が多いです。</p> <p>市民大学が平成20年からスタートしたということですが、現在までで修了者が累計141名というのは、重複している方もいるのかと思います。一番多い方で、何回修了されているのですか。</p>
事 務 局	<p>一番多い方ですと、11回修了されています。</p>
委 員	<p>今年度は14名とのことですし、毎年その程度の修了者がいらっしゃるというのは、市内でも意欲的に頑張られている方がたくさんいらっしゃるということですね。</p>

	<p>予算もあるとは思いますが、せつかくの機会ですので、修了証の授与以外にも、何か記念になる、副賞のようなものがあってもよいのかもかもしれません。</p> <p>市民大学を修了して、実際に学んだことを活かす、活動していこうというときに、地域の中でそういった場というか、コミュニティがあまりないですよ。コミュニティがないために、広がっていかない。そういった意味でも実践的な活動も含めての「パッケージ型」というのは、コミュニティづくりにも繋がりますし、とてもよいと思いました。</p> <p>充実した講座の開設、大学との連携等、様々な工夫をされながら進めてられていますね。個人個人で目標や目的はそれぞれ違うかとも思いますが、素晴らしいことを実践されているので、広報活動をさらに進めていただきたいなと思います。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>先日の県のある会議で配布された資料で、県内の市民大学講座の開設一覧といったものがあつたのですが、他市と比べ、本市での開設数は多いことが分かります。ただ、せつかくこれだけのことを実践していても、それを市民があまり知らない、浸透していないという現状があります。これは委員のおっしゃるように課題であると思ひますし、繰り返し周知していく、発信していく必要があるかなと思ひます。</p> <p>また、学びのアップデートということをお考えた時、受講を始めるきっかけづくり、受講後の学びの継続性、また、学んだことの周囲への共有、そうしたことがひとつのサイクル、体制として確立してくると、さらによいものになっていくのではないかと思ひます。</p>
<p>委 員</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>私自身は、市民大学講座は「つまみ食い講座」と思っています。「おもしろそうだからやってみたい」「ちょっとかじってみたい」というように、自分の興味関心のまま、色々なものをちょっとずつ覗いてみ</p>

	<p>るようなイメージです。修了したら次の段階へといったことを考えなくてもよいのかなという気がしています。パッケージ型というのとはともよいと感じますが、自分が満足して終わりといったことでも、十分な効果というか、成果があるのではないかとも思います。「やってみたい」といったワクワクする気持ちが大切なのではと感じました。</p>
教 育 長	<p>まずはたくさんのメニューを用意して、「食べてみたいな」という気持ちになってもらうことが大切だという御指摘ですね。知ってもらう、興味を持ってもらう、それをしないと、よいことをやっても広がっていきません。PRということにも繋がる大事な視点だと思います。</p>
委 員	<p>色々な方が様々な講座を受講されている中で、それをきっかけとして資格取を目指すといったこともあると思います。そうした時に、その取得に係る費用の補助を行うといったことも、あってもいいのではないかなと思います。</p>
事 務 局	<p>色々な学びを提供するにあたって、一人ひとりのニーズが多様化してきている中で、どこにターゲットを定めていくかということは、行政側にとっても大きな課題であると思っています。ただ、委員の皆様のお話にもあるように、学ぶことの楽しさをいかに知ってもらうかが大切だと考えています。そのきっかけづくりといったことは、民間ではできないことを、行政が実践していきたいですし、地域にも活動をされている方々がたくさんいらっしゃいますので、その、頑張られている姿も併せて発信していきたいと考えています。</p>
委 員	<p>私も学ぶことは好きですし、時間があればぜひ受講したいと思っています。</p> <p>御説明の中にもあった、「生きがい」「活躍の場の創出」はとても大切なことだと感じますし、得た知識を披露したいという気持ちはあります。私自身も、過去に民間の講座を受講した際、その成果を披露する場、ゴールといったものがなく、だんだんと足が遠のいて、結局挫</p>

	<p>折してしまうといったことがありました。講座のカリキュラムの中にそうした場というもの初めから組み込まれていれば、学ぶ意欲もわいてくるかなと思います。</p> <p>それぞれの考え方がありますので、受講に対して、「かじってみて満足」という方もいれば、社会との関わりに繋がっていきたいという方もいると思いますが、若年層も含め、様々な年齢層に発信していくと、さらに活性化していくと思います。素晴らしいと思いますし、今後とも進めていっていただきたいと思います。</p>
教 育 長	<p>「市民大学講座」というと、御高齢の方向けのものかなという印象を抱きがちですが、委員のおっしゃるように、若年者向け、子育て世代向けといった幅広い世代向けのコンテンツを用意しています。</p>
事 務 局	<p>来年度の講座では、パン作り教室を開催します。市内にお住まいで、御家庭でパン作り教室をされているような方、起業されている方、子育て中のお母さま方ですが、そういった方に講師をお願いする予定です。地域の方に自分のスキルを披露していただく、そこで学んだ方は、その講師の方のお店に行ってみようとなり、学びから、地域の繋がりが生まれるといった仕掛けをつくっていきたいと考えています。商店会とも協力しながら、地域の方が教える場を創出する、行政ならではの取り組み方であると思いますので、力を入れていきたいと考えています。</p>
教 育 長	<p>様々な活動を実施していく上で、「啓発」ということを念頭に置いて進めていくことは大切であると思います。他にはございますか。</p>
委 員	<p>特になし。</p>
教 育 長	<p>では、他になければ、以上で教育委員提案②は終了いたします。</p> <p>続きまして、「報告事項」について申し上げます。本日は「その他」を含めまして4件の報告がございます。</p> <p>① 令和4年度戸田市教育フェスティバルの実施について</p>

	<p>② 令和4年度戸田市小・中学校児童生徒プレゼンテーション大会の実施について</p> <p>③ 戸田市民大学公開講座の開催について</p> <p>④ その他</p> <p>資料 No. 2に基づき、秘密会以外の詳細につきまして、各所属長より報告いたします。なお、御質問につきましては、すべての報告が終了したのちに伺います。</p>
<p>事務局</p>	<p>報告事項①令和4年度戸田市教育フェスティバルの実施についてについて報告いたします。</p> <p>1 ページを御覧ください。1月10日に、教育センターから、各学校にオンラインで配信し、それぞれの学校で講演会を視聴していただきました。昨年度同様オンラインでの開催により、市外の教育委員会や学校など多くの方々に御参加をいただいております。また今年度は、市長、副市長も教育センターにお越しいただき、最後まで講演を聴かれました。</p> <p>今年度の講師は、スマートニュース メディア研究所 所長 山脇岳志（やまわき たけし）様と研究員 長澤江美（ながさわ えみ）様にお越しいただき、「メディアリテラシー教育の本質とは何か」というテーマで、具体的な事例も踏まえて御講演いただきました。これからの情報化時代に必要不可欠な力であることが非常に伝わってくる内容でした。</p> <p>2 ページは教員アンケートから抜粋した感想でございます。後ほど御覧ください。</p>
<p>事務局</p>	<p>報告事項②令和4年度戸田市小・中学校児童生徒プレゼンテーション大会の実施について御説明します。</p> <p>3 ページを御覧ください。1月28日に、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から昨年度同様、オンライン配信により実施いたしました。本市の関係者だけでなく県内外の教育委員会からも多数お申し込みいただき、多くの皆様に御視聴いただきました。</p> <p>今年度7回目となりましたが、毎年審査委員の皆様にも、内容のレベ</p>

	<p>ルアップについて評価をいただいております。まだまだ全ての学校というわけではありませんが、多くの発表内容は、本市で進めている戸田型PBLの学習成果や学びのプロセスがよくわかるものとなってきました。</p> <p>金賞は、戸田東小と喜沢中でした。金賞2校のプレゼン動画につきましてはYouTubeにアップしておりますので、ぜひ後ほど御覧ください。</p> <p>今後も引き続き、プレゼン大会が単なるイベントではなく、全ての学校で日々の授業の延長線上にあるものとなるよう、一層教員研修を充実するなど、推進していきたいと考えております。以上でございます。</p>
事務局	<p>資料4ページの報告事項③、市民大学公開講座の開催について報告いたします。</p> <p>3月11日(土)、午後2時10分から、文化会館において、「がんばらない生き方～あなたの人生を変える、ほどほどのススメ～」と題し、早稲田大学名誉教授、山梨大学名誉教授で、テレビなどでも活躍中の、池田 清彦 様より御講演をいただきます。</p> <p>「ほどほど」の大事さなど、人生が楽しくなる生き方を講演していただく予定です。</p> <p>今回も、会場受講に加えて、オンデマンド配信を実施いたします。</p> <p>2月6日の受講者募集開始後、現時点で会場受講は定員に達しており、キャンセル待ちの受付となりますが、オンデマンド受講は定員制限がないため、現在も募集中です。</p>
教育長	次に④その他ですが、事務局より何かございますか。
事務局	特になし。
教育長	以上で、「報告事項」が終わりました。何か御質問等がありましたら伺います。
委員	特になし。

教 育 長	それでは次に、次第6のその他の「次回の教育委員会の日程（案）」について、事務局より説明願います。
事 務 局	次回、教育委員会定例会の日程ですが、3月20日（月）午後1時30分からの開催について、お伺いいたします。
教 育 長	次回の教育委員会定例会の日程は、事務局（案）のとおりでよろしいでしょうか。
各 委 員	了承
教 育 長	それでは、次回の教育委員会定例会の日程は、事務局（案）のとおり決定いたします。次に、その他ですが、事務局から何かございますか。
事 務 局	特になし。
教 育 長	委員の皆様から次回以降の教育委員提案のテーマについて何かございますか。
委 員	幼稚園、保育園から小学校、小学校から中学校といった縦の学校間連携についてお伺いしたいです。子供の成長により所属する場所が変わっていく、そこに対してどのように教育的に連携を図っているのか、教科の内容や、人的なものも含めてお伺いできればと思います。
教 育 長	ありがとうございます。他にはいかがですか。
委 員	今回の提案で「タブレット端末の管理・運用」について御発表いただきましたが、機器の入れ替え、更新はどのようになっているのだろうと感じています。また、学校のトイレ設備の現況についても気になっているところです。両設備について、今後の更新計画等、お伺いできればと思います。
教 育 長	ありがとうございます。他にはいかがですか。
委 員	提案ではないのですが、5月以降、新型コロナウイルス感染症が「5

